



エレクトロニクスの専門商社
新光商事株式会社
<http://www.shinko-sj.co.jp>

株主・投資家の皆様へ

第63期 IR通信

2015年4月1日

▼
2016年3月31日

証券コード：8141



未来を見つめる技術力

Future Technology

お客様の課題をトータルに解決できる エレクトロニクス専門商社です。

商社の役割とは？

川上から川下まで、多様なニーズに応える
高付加価値のソリューションをご提供します。



商社が果たす主な役割

- 1 情報・調査機能
- 2 市場開拓機能
- 3 グローバル商取引
- 4 ロジスティクス機能

エレクトロニクス専門商社だからできる、あらゆるフローでのお客様の課題解決

企画・コンサルティング

お客様のビジネスモデル具現化
に向けたシステム開発のコンサル
ティング、およびパートナー
企業との協業ビジネスのご提案。

最適デバイスの提供

最先端半導体、電子部品、各種
素材の提供に加え、新光商事グ
ループの総合力をいかし、最適
デバイス・ソリューションを提供。

設計・開発

豊富な開発経験と設計環境をい
かし、お客様の仕様に合わせた
システムLSI (ASIC、マイコン、
PLD) の受託開発。

ボード・完成品の提供

パートナー企業との協業による、
ボード、モジュール、完成品の提
供、また自社工場および投資工
場への事業展開。

組み込みシステム

サーバ、ファクトリコンピュータ、
CPUボード、マザーボードの提供
とハードウェア、ファームウェア
の受託開発などのサービスを企
画・提案。

グローバル物流

取扱い品目が多様化する中、お
客様の求めるワールドワイドで
の複合ロジスティックサービス
を提供。

新光商事の強み

高い技術力に基づく「技術商社」としての提案力

日進月歩のエレクトロニクス業界において、単純にモノを提供するだけでは、お客様のニーズを満たせません。新光商事は、商社の枠を超えた高い技術力を武器に独自のサービスを提供し、お客様のニーズを実現する最適なデバイスの選定、組み合わせや使用法などを技術的な観点からご提案。また、ソフトウェアの開発や、LSIの受託開発なども行っています。その品質の高さは市場での優位性につながり、「技術商社」として業界で高く評価されています。

ボーダレスな展開にも「お客様第一」で柔軟に対応

BUSINESS FIELD

エレクトロニクスの応用分野は時代とともに広がり、お客様ニーズもますます多様化かつ高度化しています。こうした状況の中で新光商事は、グローバル化する業務形態に対してのボーダレスな展開をお客様に求められています。私たちはお客様に求められる喜びを噛みしめながら、ご要望に合わせたソリューションを提供し、これからも時代とお客様とともにビジネスフィールドを広げてゆきます。



アミューズメント
・パチンコ台・スロット台
・コントローラ・アーケードゲーム



産業
・EMS測定器・RAID装置
・指紋認証機器・インバータ
・モーター制御・FAロボット
・ナンバー読取装置・電力メーター
・スマートメーター・半導体製造装置



車載
・エンジン・トランスミッション
・エアコン・サスペンション制御
・パワーウィンドウ・カーオーディオ
・キーレスエントリー・ABS
・安全運転補助装置



通信
・携帯電話・携帯基地局
・タブレット・光通信機器
・交換機・スマートフォン



OA
・LBP・インクジェットプリンタ
・MFP・サーマルプリンタ
・ストレージ機器
・液晶プロジェクタ・PCカメラ



民生
・HDDオーディオ
・シリコンオーディオ
・地上波デジタルTV
・APSカメラ



分野別売上高構成比

- アミューズメント.....10.3%
- 通信.....5.1%
- 産業.....33.1%
- OA.....7.7%
- 民生.....8.6%
- 車載.....35.2%

積み上げられてきたソリューション実績

1953年の設立から様々な分野で、幅広い製品とソリューションの提供を行ってまいりました。また、グローバル化するお客様の業務形態に対しては、東南アジアや北米の拠点を中心にネットワークを展開し、国境を越えた情報収集力、技術サポート体制と販売網で課題の解決や要望にお応えしています。これまでに積み上げられてきたソリューション実績をいかし、今後ともお客様のご要望に合わせた提案を続けることで、ビジネスフィールドを広げてまいります。

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より当社への格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

当社第63期(2015年4月1日から2016年3月31日まで)の経営成績がまとまりましたので、ここにご報告申し上げます。当期は、娯楽機器関連の販売が停滞したことや、中国を中心とする新興国の景気停滞に伴う販売の伸び悩みなどが響き、減収減益という大変厳しい決算となりました。ただ、自動車電装関連は堅調に推移しました。また、半導体製造装置向け設備機器も堅調に推移しました。また、各種新規ビジネスへのチャレンジを行い複数のお客さまより期待や関心を寄せられておりますので、今後は、既存のビジネス強化に加え、新規ビジネスを拡大することで、業績の立て直しを急いでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 小川 達哉



1

当期(2016年3月期)の経営成績についてご解説ください。

国内経済は緩やかな回復基調が継続したものの、中国や新興国経済の成長鈍化や原油安の進行などにより、世界経済は全体的に停滞感を強め、不透明な状況で推移しました。当社グループの事業領域においては、自動車電装関連は北米やASEAN向けを中心に堅調に推移したものの、通信関連や産業機器関連では中国市場の停滞などの影響を強く受け、娯楽機器関連では業界全体のリユース・リサイクルの進展および各種規制に伴い、当社グループの売上高も大幅に落ち込みました。

そこで財務戦略として東京都目黒区に保有しておりました

土地を売却し、特別利益6億61百万円を計上いたしました。

これらの結果、当社グループの当連結会計年度の業績は、連結売上高 1,166億17百万円(前期比20.0%減)、営業利益 21億71百万円(前期比49.2%減)、経常利益 21億72百万円(前期比47.7%減)、親会社株主に帰属する当期純利益 17億68百万円(前期比28.5%減)となりました。

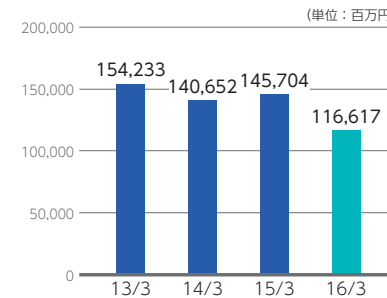
2

当期の主な取り組みとその成果をご紹介します。

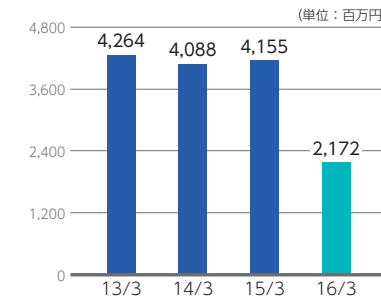
自動車電装関連の成長は、大きな成果の一つです。特に自動運転技術の実用化が急速に近づいており、自動車に搭載されるエレクトロニクス製品の高度化が求められております。

逆風下でも自動車電装関連の育成は順調 新規ビジネスも積極的に展開中

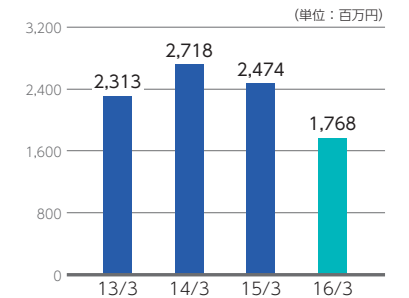
売上高



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



「自動車ソリューション技術部」内に設置した「電装戦略マーケティング課」が、こうした市場要求の把握とソリューション提案に取り組んできた成果が顕著に現れており、自動車電装関連の売上高構成比は前期の26.5%から、当期は35.2%に増加しました。

また、1つの成果と考えているのは、「空中操作ディスプレイ」の事業化です。昨年10月に幕張メッセで開催された「CEATEC JAPAN 2015」などで展示したところ、非常に多くの引き合いが寄せられました。空中に浮かび上がった立体的な映像を指で操作できるという非常にインパクトの強い商材に対し、国内外の多くのメーカーから関心が寄せられ、これまで当社グループとは取引がなかった企業との商談も複数進行しています。

3

今後の成長戦略についてお聞かせください。

あらゆる「モノ」がインターネットにつながるIoT(Internet of Things)が急速に進展しています。これに伴い、当社グループの事業領域も年々広がりを見せており、より高度で、より複合化したソリューションを提供していくことが、今後の成長に向けた戦略の基本となります。そこで重要になるのは、ルネサスエレクトロニクス株式会社や日本電気株式会社といったビジネスパートナーとの関係です。とくに当社はルネサスエレクトロニクスとの取引額が年間600億円規模に達しており、同社が注力している自動車分野や産業分野をともに開拓していくことに、引



4

来期(2017年3月期)の事業計画と業績予想についてお聞かせください。

来期も自動車電装分野は、自動運転関連システム、安心・安全系システムなど堅調に推移していくと見ております。40年近く自動車電装分野を担当している商社として、しっかりと市場のご要求に合ったソリューションを提供することで業績も堅調に推移してくれると見ています。

また、産業分野もIoTやインダストリ4.0などが市場を牽引し更には、2020年の東京オリンピックに向けたデジタルサインージ市場など緩やかに成長していけると考えております。

アッセンブリ事業に関しては組織を強化し取り組み要素を拡大させて推進してまいります。これまで当社は半導体や電子部品の販売から、ソフトウェアの受託開発、中国に展開するEMSを利用した組み立てサービスへと事業領域を拡大してきましたが、4月1日付けで設立した「組み込みシステム開発室」によって、組み込みシステムの開発から請け負える体制を整えました。単なる委託生産のEMSビジネスだけではなく付加価値の高い開発から生産まで一気通貫体制でお応えできる体制を整えたことで、IoT時代に対応した新たなアッセンブリ事業のあり方を確立してまいる所存です。

また、「空中操作ディスプレイ」ビジネスを具現化するため、4月に「AIシステム営業部」を設立しました。レンタル方式のビジネスを検討するなど、今までの新光商事とは違った

き続き大きなウエイトを置いていく考えです。

こうした大手パートナーとの密接なパートナーシップに加え、国内外の新たな商材の開拓や新しいビジネスモデルの創出もエレクトロニクスの総合商社としてはきわめて重要な課題です。すでに超低消費電力センサーや高感度磁気センサーといった商材を相次いで開拓しております。また、組み込みシステムや空中操作ディスプレイなどこれから期待できるビジネスも積極的に販売していきます。

海外市場では、中国経済の回復にはやや時間がかかりそうですが、やはり巨大で魅力的な市場であることに変わりはなく、今後も現地の商社などとの連携をさらに深めつつ、販売を強化していく方針です。このほか北米やインドなどの市場にも引き続き注力し、海外に強いエレクトロニクス商社としての実力を、さらに発揮していきたいと考えています。

アプローチも積極的に取り入れ新たなビジネスの拡大を模索していく考えです。

娯楽機器関連に関しては、新たなソリューションを搭載した画像関連ユニットなどの新製品を投入できるとみており、売上高は回復する見込みです。しかしながら、全体としての事業環境は引き続き非常に厳しい状況で推移するものと思われ、通期の連結業績については、売上高が1,270億円(前期比8.9%増)、営業利益が23億円(前期比5.9%増)、経常利益が23億円(前期比5.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益が15億円(前期比15.2%減)と予想しています。

5

最後に、株主の皆様へメッセージをお願いします。

当社は株主の皆様への利益還元やコーポレート・ガバナンスのさらなる充実に注力しており、昨年6月には社外取締役を招聘するとともにさらにもう1名の社外取締役を本年に招聘する計画です。そして、業績連動型株式報酬制度の導入

もいたしました。また、株主還元の一環として昨年11月から本年1月までに87万3,500株の自己株式を取得いたしました。今後も引き続き固定資産の見直し検討、配当政策の機動的な実施、持続的な経費効率化運動などの財務戦略を展開するなど、すべてのステークホルダーの皆様にご配慮した経営を行ってまいります。

当期は中国市場の低迷や娯楽機器関連の需要減退などの影響を受け、経営成績は非常に厳しいものとなってしまいました。しかしながら、当社グループは今、自動車電装関連という非常に有望な市場を確実に捉えており、当面はこの分野の売上高を高水準で伸ばしていけると考えております。国内外の有力な顧客との商談が多数進行しております。それらのビジネス推進を着実に実行し、中期経営計画の達成を目指してまいりますので、今後の展開に是非ご期待いただければと存じます。

株主の皆様には引き続きご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

配当について

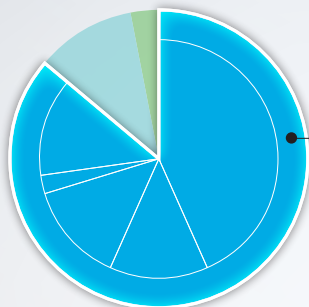
当社は安定的な配当の継続を基本として、実質配当額向上の観点から株主資本利益率の向上に努め、連結配当性向の目標値を50%以上としております。当事業年度の期末配当金につきましては、1株当たり20円といたしました。中間配当金と合わせ、年間配当金は1株当たり40円となります。

	前期実績	当期実績
中間配当金	15円	20円
期末配当金	25円	20円
年間配当金	40円	40円



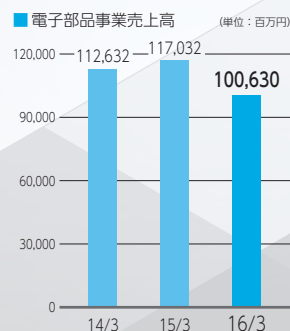
娯楽機器関連の需要冷え込みなどにより 売上高は**116,617**百万円(前期比20.0%減)となりました。

電子部品事業

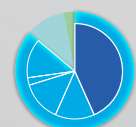


品種別売上高構成比(連結)
電子部品事業
86.3%

売上高
100,630百万円
(前期比14.0% ↓)



集積回路



集積回路
43.5%

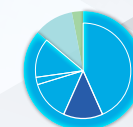
売上高
50,777百万円
(前期比2.0% ↓)



出展 ルネサスエレクトロニクス(株)

国内において、民生関連及び自動車電装関連が堅調に推移いたしました。海外においては、自動車電装関連は堅調に推移いたしました。娯楽機器関連が減少いたしました。以上の結果、集積回路の売上高は507億77百万円(前期比2.0%減)となりました。

半導体素子



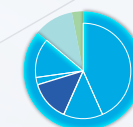
半導体素子
13.3%

売上高
15,511百万円
(前期比17.8% ↓)



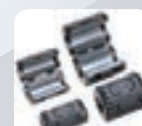
国内、海外共に娯楽機器関連及び産業機器関連が低調に推移いたしました。以上の結果、半導体素子の売上高は155億11百万円(前期比17.8%減)となりました。

回路部品



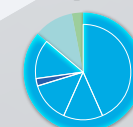
回路部品
13.5%

売上高
15,737百万円
(前期比9.3% ↓)



国内、海外共に娯楽機器関連及び産業機器関連が低調に推移いたしました。以上の結果、回路部品の売上高は157億37百万円(前期比9.3%減)となりました。

LCD等



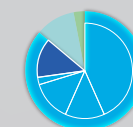
LCD等
2.5%

売上高
2,914百万円
(前期比42.0% ↓)



国内、海外共に、娯楽機器関連が大幅に減少いたしました。以上の結果、LCD等の売上高は29億14百万円(前期比42.0%減)となりました。

その他電子部品



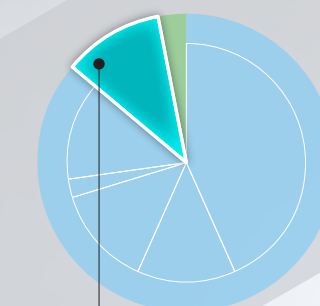
その他電子部品
13.5%

売上高
15,689百万円
(前期比34.5% ↓)



国内において、娯楽機器関連が低調に推移いたしました。海外においては、産業機器関連が低調に推移いたしました。以上の結果、その他電子部品の売上高は156億89百万円(前期比34.5%減)となりました。

アッセンブリ事業

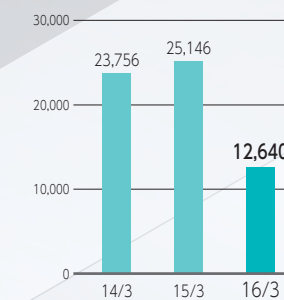


品種別売上高構成比(連結)
アッセンブリ事業
10.8%

売上高
12,640百万円
(前期比50.0% ↓)



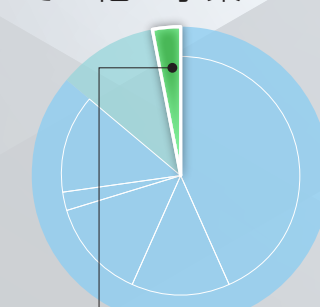
アッセンブリ事業売上高 (単位: 百万円)



アッセンブリ製品

国内において、娯楽機器関連が大幅に減少いたしました。海外においては、娯楽機器関連及び産業機器関連が低調に推移いたしました。以上の結果、アッセンブリ製品の売上高は126億40百万円(前期比50.0%減)となりました。

その他の事業

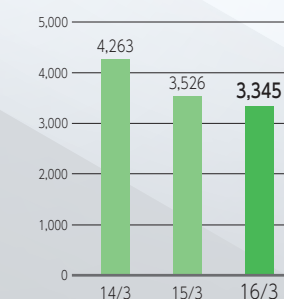


品種別売上高構成比(連結)
その他の事業
2.9%

売上高
3,345百万円
(前期比5.1% ↓)



その他の事業売上高 (単位: 百万円)



電子機器及びマイクロコンピュータのソフトウェア受託開発

国内において、娯楽機器関連向けコンピュータ、自動車電装関連向け受託ソフト開発が減少いたしました。以上の結果、電子機器及びマイクロコンピュータのソフトウェア受託開発の売上高は33億45百万円(前期比5.1%減)となりました。



特集

「Renesas DevCon 2016 India」に協賛出展

1 成長著しいインド市場で プレゼンス向上をアピール



2016年1月20・21日の2日間に渡りインド・バンガロールにて開催された、ルネサスエレクトロニクスのプライベートイベント「Renesas DevCon 2016 India」に協賛出展をいたしました。Renesas DevCon Indiaは、2013年に続いての2回目の開催となります。当社のインドでのソリューション展示も、車載にフォーカスしたルネサスインドの2014年のプライベートショーに続き、2回目となりました。日系特約店として当社のみが参加した展示会では、多くのお客様との商談を開拓することができ、拡大するインド・エレクトロニクス市場における当社の更なるプレゼンス向上を図れました。また国内唯一の参加ということもあり、国内外にルネサス

エレクトロニクスとの強いパートナーシップをアピールする絶好の場となりました。

「Renesas DevCon 2016 India」の商談の中で、インドTier1メーカより、第13回オートエキスポ2016 モータショー（2016年2月4日～7日：開催地デリー）で当社ソリューションを活用した展示の訴求をしたいとの申し入れがあり、応援展示を実施。その結果として、現地メーカと協力したビジネス開発が推進しています。エレクトロニクス市場の成長が著しいインドで、着々とビジネスの開拓を進めています。

※Tier1（ティアワン）
自動車メーカに直接部品を納入する一次サプライヤー

2 空間に浮かんだ映像をタッチ・フリック操作 未来型インターフェース Alplay



Alplayは、アスカネット製AIディスプレイと、NECソリューションイノベータ製フィンガージェスチャーを融合した空中操作ディスプレイで、次世代のユーザーインターフェースです。空中に立体的な映像を浮かび上げらせ、その映像を指で操作できるという、まるでSF映画に出てくる未来が実現したかのような操作が可能です。

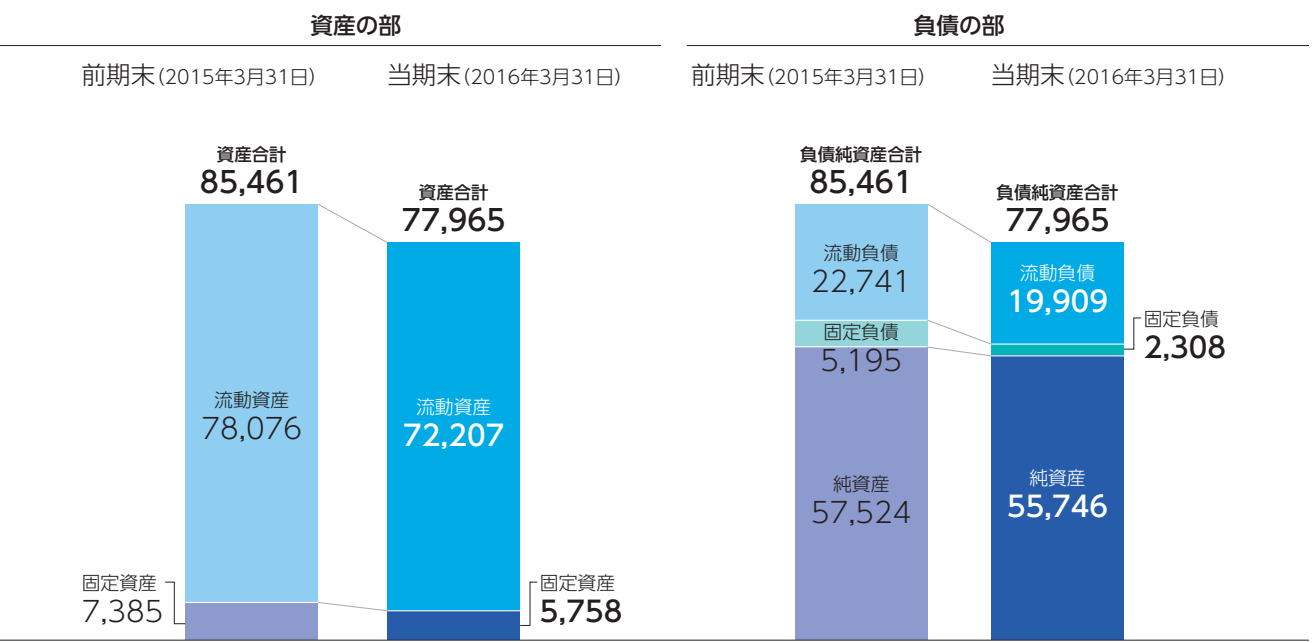
当社は、AIシステム営業部を発足させ、新しい市場開拓に努めています。2015年11月には大手旅行代理店の株式会社エイチ・アイ・エス様の渋谷本店に採用され、新しい店舗づくりに貢献しています。さらにレンタル事業も開始し、既に複数のレンタル案件を受注しております。

また、株式会社サンワカンパニー様が、Alplayを使用

したメインカウンターを、イタリア・ミラノで開催される世界最大規模の家具見本市『ミラノサローネ国際家具見本市』（2016年4月12日～17日）に出展され、盛況に終了しました。世界中のメーカやデザイナーが一堂に会する見本市は、その年のデザイン・トレンドがいち早く発信され、世界中から30万人以上の業界関係者が訪れるインテリアデザイン界で最もエキサイティングな見本市と言われています。当社につきましても、Alplayの世界デビューとなり、今後の拡大に期待しております。今後とも新しい市場開拓と新しいビジネスモデルの創出を目指して活動を加速いたします。

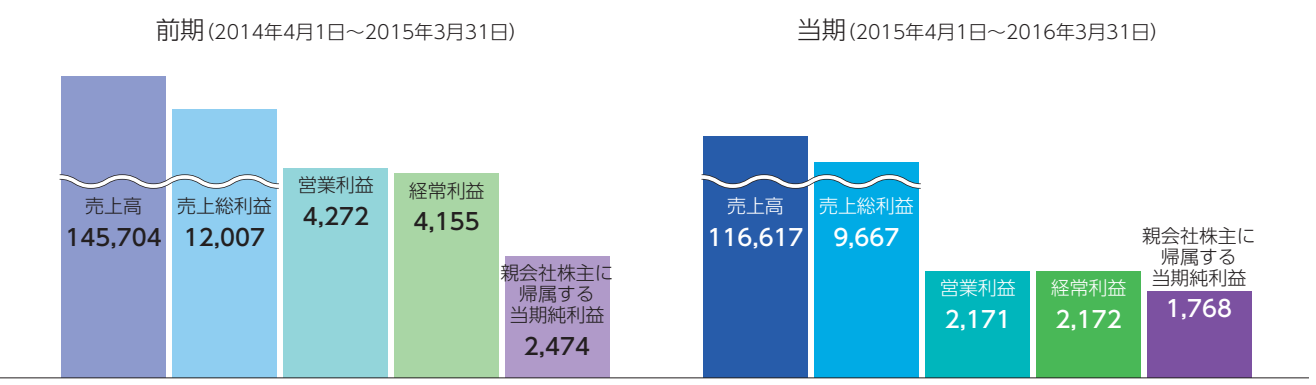
連結貸借対照表

(単位:百万円)



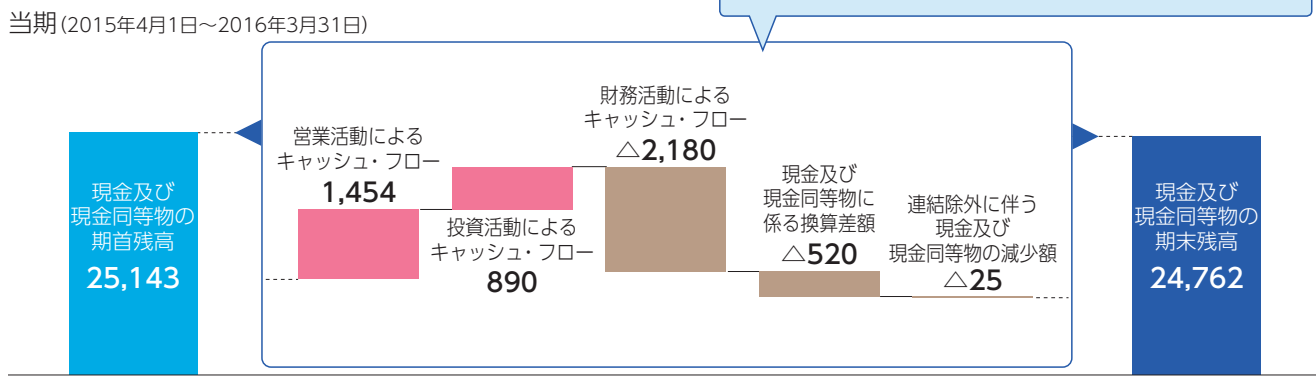
連結損益計算書

(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)



財務のポイント

- 流動資産**
流動資産は722億7百万円となり、前期末に比べ58億69百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が67億99百万円、未収入金が10億16百万円増加したものの、受取手形及び売掛金が55億44百万円、有価証券が69億円、商品及び製品が8億68百万円減少したこと等によるものであります。
- 固定資産**
固定資産は57億58百万円となり、前期末に比べ16億26百万円減少いたしました。これは主に土地売却により土地が5億20百万円、投資有価証券が9億57百万円減少したこと等によるものであります。
- 流動負債**
流動負債は199億9百万円となり、前期末に比べ28億31百万円減少いたしました。これは主に1年内返済予定の長期借入金が25億円増加したものの、支払手形及び買掛金が54億52百万円減少したこと等によるものであります。
- 固定負債**
固定負債は23億8百万円となり、前期末に比べ28億86百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が25億円、繰延税金負債が3億16百万円減少したこと等によるものであります。
- 純資産**
純資産は557億46百万円となり、前期末に比べ17億78百万円減少いたしました。これは主に資本剰余金が1億33百万円、利益剰余金が9

- 億67百万円増加したものの、自己株式が12億48百万円増加したこと、その他有価証券評価差額金が4億32百万円、土地再評価差額金が2億80百万円、為替換算調整勘定が9億6百万円減少したこと等によるものであります。
- 営業活動によるキャッシュ・フロー**
営業活動の結果獲得した資金は、14億54百万円（前期比64.5%減）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益が26億92百万円、未収入金の増加11億91百万円、仕入債務の減少47億42百万円、法人税等の支払11億42百万円の支出等があったものの、売上債権の減少49億5百万円、たな卸資産の減少7億10百万円の収入等があったことによるものであります。
 - 投資活動によるキャッシュ・フロー**
投資活動の結果獲得した資金は、8億90百万円（前期7億41百万円の使用）となりました。これは主に定期預金の預入による10億14百万円、無形固定資産の取得による1億39百万円の支出等があったものの、定期預金の払戻7億88百万円、有形固定資産のうち、土地の売却による11億82百万円の収入等があったことによるものであります。
 - 財務活動によるキャッシュ・フロー**
財務活動の結果使用した資金は、21億80百万円（前期比129.4%増）となりました。これは主に短期借入金の実行3億95百万円、自己株式の売却3億87百万円の収入等があったものの、短期借入金の約定弁済3億84百万円、自己株式の取得11億15百万円、株式報酬制度設定による支出3億87百万円、配当金の支払10億74百万円の支出等があったことによるものであります。

会社の情報 (2016年3月31日現在)

会社概要

商号 新光商事株式会社
Shinko Shoji Co.,Ltd.
本社 〒141-8540 東京都品川区大崎1-2-2
アートヴィレッジ大崎セントラルタワー13F
ホームページ http://www.shinko-sj.co.jp/
代表電話番号 TEL. 03-6361-8111
設立 1953年(昭和28年)11月
資本金 95億193万円
従業員数 連結803名 単独319名
営業品目 電子部品、アッセンブリ製品及び電子機器の販売
主要取扱商品 マイコン、システムLSI、半導体素子、メモリ、
コンデンサ、フェライトコア、カラー液晶、
一般電子部品、アッセンブリ製品、
コンピュータ周辺機器、レーザ装置他
事業内容 集積回路・半導体素子等の電子部品、アッセンブ
リ製品及び電子機器の販売、これらに関連する輸
出入業務並びにこれらに付帯する事業

事業拠点

本社 大阪支店
立川支店 広島支店
仙台支店
宇都宮支店 川崎物流センター
埼玉支店 塩尻物流センター
甲府支店
松本支店
北陸支店
浜松支店
名古屋支店

取締役及び監査役

代表取締役会長 北井 暁 夫
代表取締役社長 小川 達 哉
常務取締役 佐々木 孝 道
常務取締役 稲葉 淳 一
取締役 正 木 輝
取締役 弓 削 文 孝
取締役 細 野 克 宏
取締役 宮 澤 清 高
取締役(社外) 大 浦 俊 夫
常勤監査役 佐 藤 俊 彦
監査役(社外) 坂 巻 國 男
監査役(社外) 矢 内 銀 次 郎

グループ会社

国内連結子会社 新光商事エルエスアイデザインセンター株式会社
ノバラックスジャパン株式会社
NT販売株式会社
主な海外連結子会社
[香港] NOVALUX H.K. ELECTRONICS LTD.
[上海] 樂法洛(上海)貿易有限公司
[シンガポール] SHINKO(PTE) LTD.
[台湾] 陽耀電子股份有限公司
[アメリカ] NOVALUX AMERICA INC.
[タイ] NOVALUX(THAILAND) CO., LTD.
[深セン] 調諧電子科技(深セン)有限公司
[スペイン] NOVALUX EUROPE, S. A.

株式の情報 (2016年3月31日現在)

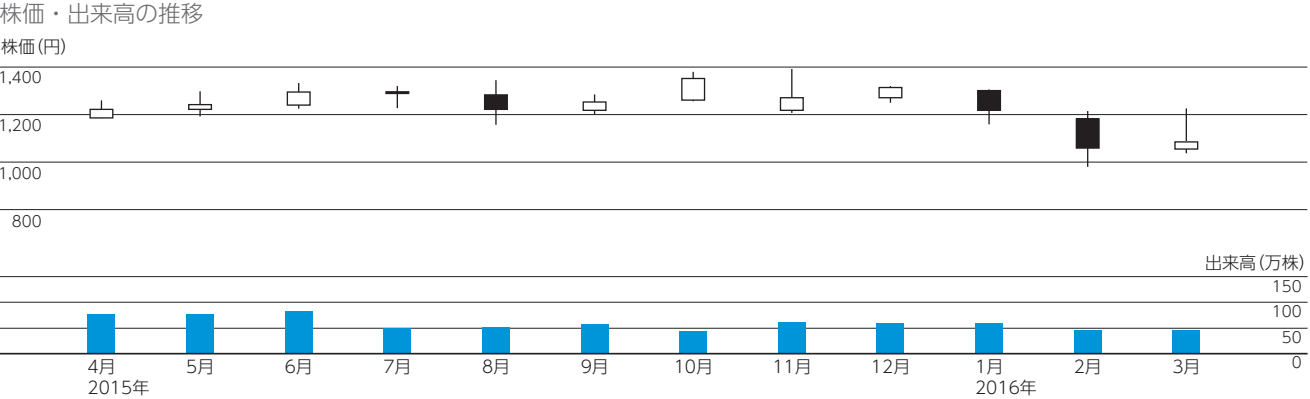
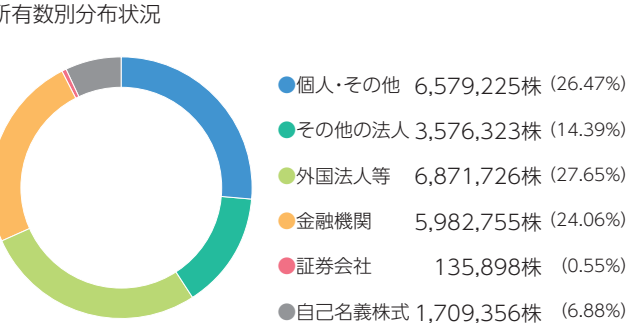
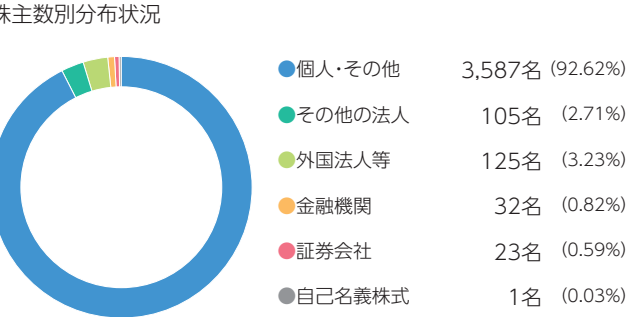
株式の状況

発行可能株式総数 39,700,000株
発行済株式の総数 24,855,283株
株主数 3,873名

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社キタイアンドカンパニー	2,450	10.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	771	3.3
北井 暁夫	651	2.8
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	633	2.7
株式会社横浜銀行	571	2.4
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	559	2.4
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	549	2.3
株式会社三井住友銀行	510	2.2
水上 富美子	480	2.0
STATE STREET CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OM44	466	2.0

(注) 1. 大株主(上位10名)は自己名義株式2,009,356株を除いて記載しております。
尚、2,009,356株には「株式給付信託(BBT)」制度の導入に伴い、資産管理サービス
信託銀行株式会社(信託E口)が保有する300,000株を含めております。
2. 持株比率は、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する300,000株
を除く自己名義株式1,709,356株を控除して計算しております。

株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	公告の方法	日本経済新聞に掲載して行う
定時株主総会	毎年6月開催	上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、 あらかじめ公告して定めた日	(ご注意)	1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。 2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三井住友信託銀行にお問い合わせください。 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社		
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711 (通話料無料)		
特別口座の 口座管理機関 連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL.0120-782-031 (通話料無料)		

ホームページのご案内



トップページ

IRやCSR等、当社の最新情報はホームページでご覧ください。
<http://www.shinko-sj.co.jp/>



IR情報



ガバナンス等